

# 国選定重要文化的景観 葛飾柴又の文化的景観整備計画

— 概要版 —



葛飾区教育委員会

令和4年11月

# 葛飾柴又の文化的景観

## 文化的景観とは

「文化的景観」とは、山間や海辺の農山漁村、あるいは町場の商店街や都市のまち並みなど、風土に根ざして営まれてきた人々の生活や生業のあり方を表す景観地のことを言います。文化的景観は、私たちが自然や風土と共生する中で育んできた原風景とも言えるものです。

「文化的景観」は、平成16年の文化財保護法の改正に伴い、新たな文化財の種類として位置づけられ、特に重要なものを「重要文化的景観」として国が選定する制度が整えられました。文化的景観の保護制度は、魅力ある地域づくりの推進や地域コミュニティの活性化など、地域の誇りを次世代へと継承する制度として期待されています。



葛飾柴又の航空写真(大正末期から昭和初期)

## 葛飾柴又の文化的景観の価値



柴又地域航空写真(平成20年頃)

### 〔重要文化的景観選定までの取組〕

映画『男はつらいよ』の主人公「寅さん」の故郷として知られる葛飾区の柴又は、江戸川西岸に位置し、水や緑の豊かさ、柴又八幡神社に代表される歴史の深さ、帝釈天題経寺とその参道の賑わいに加え、地域コミュニティの親密さが魅力で、毎年多くの人が訪れています。

葛飾区では、こうした魅力を引き継ぎつつ新たな価値の創出を目指して、平成23年度から同26年度にかけて葛飾柴又地域の文化的景観の調査を実施し、平成29年に「葛飾柴又の文化的景観保存計画」を策定しました。

葛飾区では、これらの成果に基づき文部科学大臣に重要文化的景観の選定申出を行い、平成30年2月13日に「葛飾柴又の文化的景観」が、東京都では初めて国の重要文化的景観に選定されました。

### 〔文化的景観の特徴〕

葛飾柴又は、東京低地のなかの微高地で、帝釈天題経寺の存在を核とし周囲の低地を開発しながら、一つの領域として発展してきました。その都市構造と、生業を基盤とした独特の情緒ある景観が継承され、現在も生き続けている点で他に例がありません。またその点が評価されて映画の舞台となり、多くの人々に記憶されています。これらの点からきわめて貴重な景観地として「国重要文化的景観」に選定されました。

「文化的景観」という見方から葛飾柴又をとらえると、「葛飾柴又の文化的景観」の価値は以下の3点にあります。

- ①江戸・東京と房総・北関東という2つの流れが結節する場所としてのノード性(結節点)
- ②都市・農村の両義性
- ③参詣客を意識して変貌してきた建築・空間の流動性

また申請にあたっては、「葛飾柴又の文化的景観」を構成する本質的な価値を示す「重要な構成要素」を特定しています(令和4年現在83件)。「重要な構成要素」の保全と継承に努めることで、文化的景観の価値を維持し、持続的な地域の発展を目指します。



夕暮時の帝釈天参道

# 葛飾柴又の文化的景観の範囲

「葛飾柴又の文化的景観」は、帝釈天題経寺付近の「第1のリング」とそれを包む「第2のリング」、さらにそれらを取り囲む「第3のリング」という3つの区域(リング)から成り立っています。保存計画においてはこの3つのリングと共に、景観のまとまりごとに7つの景観単位を設けて保存や活用、整備の方針を立てています。また、これらの文化的景観の一体性を担保するものとして、柴又用水(柴又の範囲を規定)、街道と江戸川(広域交通・流通の結節点)、旧家(微高地にある柴又地域発展の主体)の3要素が挙げられます。



# 葛飾柴又らしさ



江戸川上空から柴又のまちを俯瞰(平成30年ドローンで撮影)

## 【都市と田園】

葛飾柴又では、渡河地点に向かって微高地に道が通され、その沿道に農村が形成され、その中に信仰を軸とする町筋が発展してきました。また、その北部及び南部には農地から転じた市街地が広がります。

「葛飾柴又らしさ」の一つは、川が近く、柴又八幡神社を歴史の起点とし、帝釈天とその参道を発展のシンボルとしながら、その周辺に農村を由来とする緑豊かな低層の住環境が広がることにあり、江戸川土手から見る麓の景色、青空の広さ、空気の良さにも繋がっています。

このような「葛飾柴又らしさ」を表すものとしては、第1のリング、第2のリング、第3のリングとしてのそれぞれの景観のまとまりや、時代ごとの発展を伝える重要な構成要素等が挙げられます。

## 【伝統の継承】

葛飾柴又では、時代が移り変わる中でも、祭礼や年中行事と共に、行楽地ならではの名物料理、名産品のような文化が発展し、人々に受け継がれてきました。



柴又八幡神社の神獅子



草だんご

鯉のあらい

このような文化は、また、地域社会の縦の繋がりや横の繋がりを持ち、地域内流通を支え、顔が見える生産活動を促し、地域を支える次世代を育ててきました。

地域の内外が共に認める「葛飾柴又らしさ」は、人情

や下町情緒という言葉が似合うまちという点にあります。地域文化が介在する人と人との交流と言い換えることもできます。

このような「葛飾柴又らしさ」を表すものには、柴又八幡神社等の祭礼や年中行事、川魚料理や草だんご、煎餅、漬物等の地場産品を用いた特産品、弾き猿といった郷土玩具等が挙げられます。

## 【内と外の文化交流】

水陸交通の結節点として栄えた葛飾柴又は、外の文化の影響を様々な受け、積極的に取り入れてきました。



帝釈天題経寺の彫刻

「葛飾柴又らしさ」の一つは、地域内で互いに

気遣い合いながらも、細部では外の文化、新しい文化を積極的に捉える気風にあります。このような「葛飾柴又らしさ」を表すものとしては、日光東照宮(栃木県日光市)や歓喜院聖天堂(埼玉県熊谷市)の関東の内陸部の寺社彫刻と、南房総地域の寺社彫刻の影響がうかがえる帝釈天題経寺の堂舎の彫刻、松戸から曳家されたと伝わる帝釈天参道の店舗、下総の農家の特徴がうかがえる帝釈天参道の店舗、旧家の生垣に用いられるイヌマキ等が挙げられます。

## 【葛飾柴又らしさの象徴的な場】

「都市と田園」「伝統の継承」「内と外の文化交流」という葛飾柴又らしさを伝える最も象徴的なものは帝釈天題経寺とその参道のまち並みです。明治から大正・昭和にかけての伝統形式を引き継ぐ木造店舗の多くは農家を起源とし、現在でもそこで住まいながら製造と販売をしているところもあります。伝統的な名物・名産や対面販売、来訪者との交流等、葛飾柴又らしさのすべてを目に見える形で今に伝えています。

事業計画 《目次》事業の構成 — 3つのリングとの関連と対象者

課題	方針	取組	対象地域			対象者		詳細掲載ページ		
			第1のリング	第2のリング	第3のリング	地域	行政			
《課題1》 重要な構成要素を継承するための取組	方針1 護り支える	(1)-1 重要な構成要素の所有者の理解と協力により保全する	(1)-1-① 重要な構成要素の保全の取組	J	●	●	●	○	○	P8~P9
		(1)-1-② 文化的景観一般にかかわる相談窓口の整備	K	●	●	●	○	○		
		(1)-1-③ 重要な構成要素の中でも歴史的価値の高い建造物の保護	J	●	●	●	○	○		
		(1)-2 帝釈天題経寺と、個性を活かしながらもルールのある参道景観を継承する	(1)-2-① 参道景観保全の取組	C	●			○	○	
《課題2》 地域住民の文化的景観の理解と地域内外への周知	方針2 知って楽しむ	(2) 文化的景観の価値と魅力を周知する事業を充実させる	(2)-① 内外に向けた普及・啓発事業(誇りの醸成)	L	●	●	●	○	○	P10~P11
			(2)-② 文化的景観保存活動への支援	J	●	●	●	○	○	
			(2)-③ 文化的景観にかかわる調査研究	M	●	●	●	○	○	
			(2)-④ 柴又特有の伝統行事の継承	F	●	●	●	○	○	
	方針3 歩いて学ぶ	(3) 「水」と「歩く」が一体化した景観を保全し、回遊性を向上させる	(3)-① 柴又用水跡の活用	G		●	●	○	○	
			(3)-② 国分道、中通り、帝釈道の活用	G	●	●	●	○	○	
《課題3》 柴又街道の拡幅整備事業の機会を捉えた景観整備	方針4 道路整備事業との調和景観整備	(4) 道路整備事業に係る重要な構成要素や景観保全のための取組を進める	(4)-① 歴史的意味を伝えるサインシステムを構築する	N	●	●	●	○	○	P12~P13
			(4)-② 柴又街道との交差点部における参道の連続性の保持	N	●	●	●	○	○	
			(4)-③ 21世紀の参道の創出	N	●	●	●	○	○	
《課題4》 生業(商業・農業・観光等)の活性化	方針5 創って楽しむ	(5) 文化的景観の活用等により商業・農業・観光振興を推進する	(5)-① 商店街支援の取組	D	●	●	●	○	○	P14~P15
			(5)-② 農業支援の取組	H		●	●	○	○	
			(5)-③ 観光支援の取組	E	●	●	●	○	○	
《課題5》 地域の災害レジリエンスの向上・強化	方針6 地域の災害レジリエンスを高める	(6) 防災体制の強化を図る	(6)-① 災害時の対応力強化	O	●	●	●	○	○	P16~P17
			(6)-② 防災意識の向上	O	●	●	●	○	○	
《課題6》 農業景観の保全	方針7 景観を楽しむ	(7) 心和む水と緑豊かな景観を守り伝える	(7)-① 農業景観保全の取組	I		●	●	○	○	P18~P19
(7)-② 堤防上からの景観保全			A	●	●	●	○	○		
(7)-③ 矢切の渡しの活用			B			●	○	○		
《課題8》 文化的景観を継承するための体制の充実	方針8 みんなで伝える	(8) 地元住民と区の両輪でまち並み景観を守っていく体制を構築する	(8)-① 重要な構成要素所有者が情報の共有等を図るための「(仮称)葛飾柴又の文化的景観連絡協議会」の組織化	P	●	●	●	○	○	P18~P19
			(8)-② 文化的景観をPRするサポーターの育成	L	●	●	●	○	○	

《凡例》

- A 堤防上からの景観保全
- B 矢切の渡しの活用
- C 参道景観の保全
- D 商店街支援
- E 観光支援
- F 伝統行事の継承
- G 水路跡・旧道の活用
- H 農業支援
- I 農業景観の保全
- J 重要な構成要素の保全
- K 相談窓口の整備
- L 普及・啓発事業
- M 調査研究
- N 道路整備事業
- O 防災・減災
- P 重要な構成要素所有者の情報共有のための組織づくり

-----  
A~P  
については P6 ~ P7 を参照

-----  
対象者： ● 主体  
○ 協力  
※現段階の整理であり、  
今後の調整によって  
見直される場合もある。

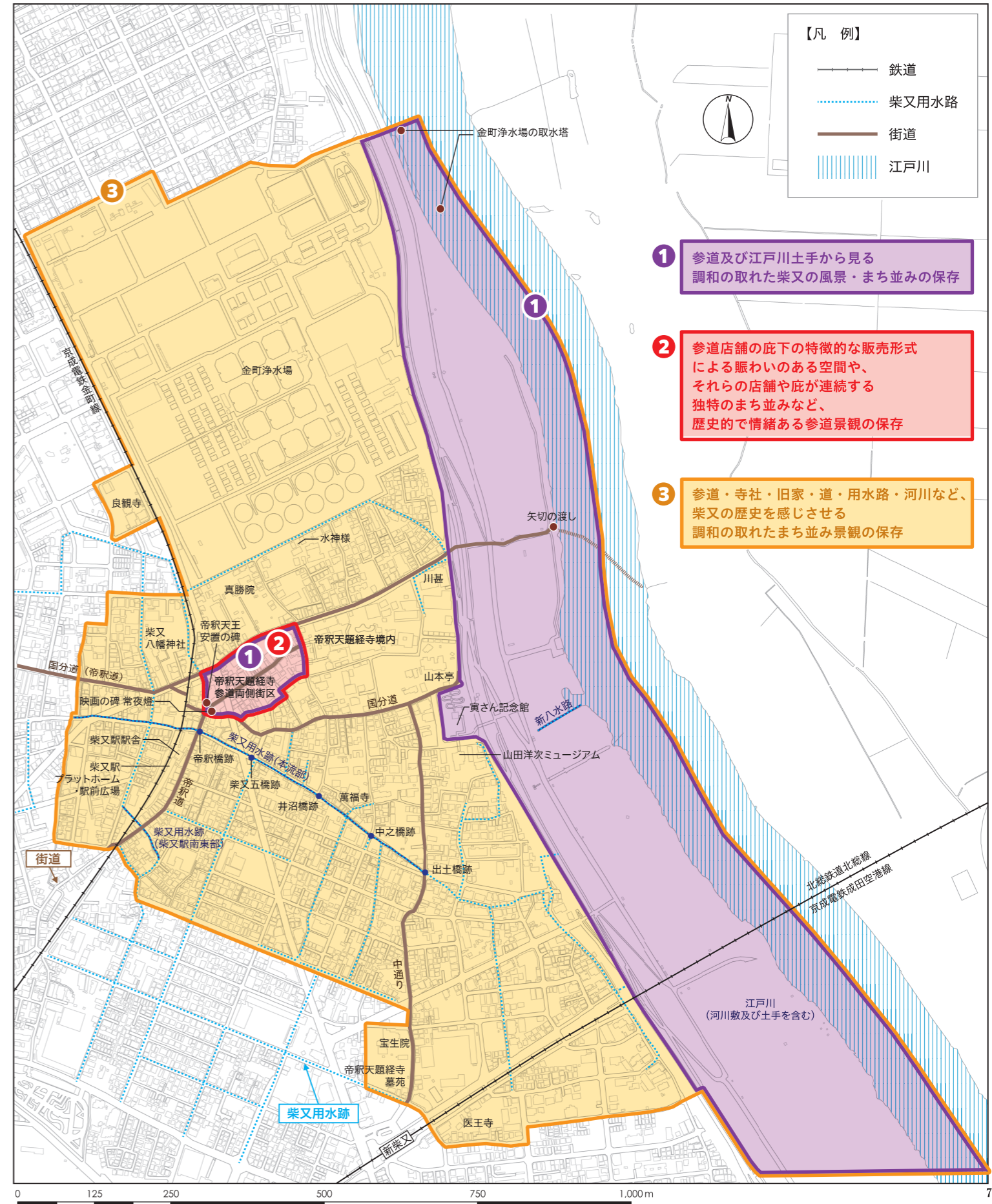
-----

# 事業計画 《取組と項目属性の関係》

項目属性	取組
<p><b>①</b> 参道及び江戸川土手から見る調和の取れた柴又の風景・まち並みの保存</p>	<p><b>A</b> 堤防上からの景観保全</p>  <p><b>B</b> 矢切の渡しの活用</p>  <p><b>J</b> 重要な構成要素の保全</p> <p><b>K</b> 相談窓口の整備</p> <p><b>L</b> 普及・啓発事業</p> <p><b>M</b> 調査研究</p> <p><b>N</b> 道路整備事業</p> 
<p><b>②</b> 参道店舗の底下の特徴的な販売形式による賑わいのある空間や、それらの店舗や庇が連続する独特のまち並みなど、歴史的で情緒ある参道景観の保存</p>	<p><b>C</b> 参道景観の保全</p>  <p><b>D</b> 商店街支援</p> <p><b>E</b> 観光支援</p>  <p><b>O</b> 防災・減災</p> 
<p><b>③</b> 参道・寺社・旧家・道・用水路・河川など、柴又の歴史を感じさせる調和の取れたまち並み景観の保存</p>	<p><b>F</b> 伝統行事の継承</p>  <p><b>G</b> 水路跡・旧道の活用</p> <p><b>H</b> 農業支援</p>  <p><b>I</b> 農業景観の保全</p> <p><b>P</b> 重要な構成要素所有者の情報共有のための組織づくり</p> 

# 《項目属性の該当地域》

「葛飾柴又の文化的景観」の整備活用に向けたそれぞれの課題について、それらを解決するための事業計画の項目属性を大きく①参道及び江戸川土手から見る調和の取れた柴又の風景・まち並みの保存、②参道店舗の底下の特徴的な販売形式による賑わいのある空間や、それらの店舗や庇が連続する独特のまち並みなど、歴史的で情緒ある参道景観の保存、③参道・寺社・旧家・道・用水路・河川など、柴又の歴史を感じさせる調和の取れたまち並み景観の保存の3つに類型化し、各々の取組と共通する取組を整理したものを前頁に示し、選定エリア内でどこが該当するのか下図に示しています。



方針	取組	項目	事業	内容	スケジュール			
					短期 R4-R6	中期 -R9	長期 -R13	
方針1 護り支える  (1)-1 重要な構成要素の所有者の理解と協力により保全する	(1)-1-① 重要な構成要素の保全の取組	帝釈天題経寺諸堂及び境内地の修理及び修景への支援	新規 助成制度創設による支援	ソフト	重要な構成要素となっている帝釈天題経寺諸堂及び境内地について、修理等に対し制度を創設し支援を行うことにより保全を図る。			
		重要な構成要素の修理及び修景への支援	新規 助成制度創設による支援	ソフト	重要な構成要素となっている保存対象物について、所有者等が行う良好な状態に維持または回復するための保存修理に対して、制度を創設し支援を行うことにより保全を図る。			
	(1)-1-② 文化的景観一般にかかわる相談窓口の整備	文化的景観一般にかかわる相談窓口の設置・周知	拡充 相談窓口の設置・周知	ソフト	重要な構成要素の修理及び文化的景観区域内における修景等に関する手続きや文化的景観一般に関し、必要な情報発信、助言、相談等を行うための総合窓口を設置し、区民の理解と協力が得られるようにする。			
	(1)-1-③ 重要な構成要素の中でも歴史的価値の高い建造物の保護	保存すべき貴重な建造物のリスト化	新規 文化財指定	ソフト	重要な構成要素に位置付けられている参道に所在する店舗の中でも、特に外観・間取り等において伝統的で歴史的・文化的価値が高く、代表的な存在である建築物について文化財指定を行い保護・活用を図る。			
(1)-2 帝釈天題経寺と、個性を活かしながらもルールのある参道景観を継承する	(1)-2-① 参道景観保全の取組		継続 柴又地域景観地区によるまち並み景観の継承	ソフト	歴史的・文化的な魅力ある風景・景観を残すため、建築物の形態意匠の制限を定め調和したまち並み景観を継承する。			
		既存の条例・ガイドライン等の運用	継続 柴又まちなみ景観ガイドラインに基づく地域による景観保全との連携	ソフト	NPO 法人柴又まちなみ協議会が、建築物の配置、形態などに一定の基準を設け、江戸川堤防からの眺望や参道から帝釈天の通景等の保全のために定めている、柴又まちなみ景観ガイドラインとの連携を図る。			
			継続 葛104号の無電柱化	ハード	柴又駅から柴又街道に向かう葛104号の無電柱化を推進し、良好な景観を創出すると共に、安全で快適な歩行空間の確保、防災機能の強化を図る。			
		新たな保全策の検討	新規 景観地区の検証	ソフト	開発と景観保全の観点から、「参道や江戸川土手から見る調和の取れた柴又の風景・まち並み」の実現に向け、高さの最高限度を含めた「柴又地域景観地区(平成29年3月都市計画決定)」の検証を行う。			



開放的な店構えを実現する太い差脚(黄色の囲み部分)が、屋根や庇と共に、参道の方向性を強調する効果を生み出している

方針	取組	項目	事業	内容	スケジュール				
					短期 R4-R6	中期 -R9	長期 -R13		
<b>方針2</b> 知って楽しむ  (2) 文化的景観の価値と魅力を周知する事業を充実させる	(2)-① 内外に向けた普及・啓発事業(誇りの醸成)	柴又らしさを共有し、後世に伝えていくためのスローガンづくり	<b>新規</b> 「柴又憲章」(仮称)の検討・PR	<b>ソフト</b> 文化的景観の維持・継承のためのスローガンとして「柴又憲章」(仮称)の選定を検討及びPRを行うことにより、内外に向けた普及・啓発を図る。					
		区内小中学生に向けた啓発活動の実施	<b>新規</b> 区内小中学校と連携した事業の実施	<b>ソフト</b> 地元小学生を対象にした「柴又宝物探し」等の事業を実施する等、区内の小中学校と連携し次世代の担い手に向けた普及啓発を図る。					
		江戸川等柴又と水とのかわりを深掘りする事業の実施	<b>新規</b> 川基跡地活用	<b>ハード</b> <b>ソフト</b> 観光地柴又の魅力の向上とさらなる発展に向け、葛飾区が取得した川基跡地について、「葛飾柴又の文化的景観」の価値と調和的な有効活用策を検討する。					
			<b>拡充</b> 川漁師ファン倶楽部との連携	<b>ソフト</b> 江戸川の水辺環境の歴史と民俗を学び、川漁師との交流を通して将来への継承を図る目的で、川漁師との交流会、水辺の生き物に関する調査や環境調査、川魚の食文化を伝える活動をしている「川漁師ファン倶楽部」と連携したイベントを実施する。					
		(2) 文化的景観の価値と魅力を周知する事業を充実させる	(2)-① 内外に向けた普及・啓発事業(誇りの醸成)	文化的景観の紹介	<b>新規</b> 説明板・案内板等の設置	<b>ハード</b> 地域住民及び来訪者に対して文化的景観を紹介し、理解してもらうため、重要な構成要素に標示板を設置し紹介する。また、文化的景観を広く周知するためのシンボルとなる記念碑を設置する。			
					<b>拡充</b> 葛飾柴又に関する魅力的な情報の発信	<b>ソフト</b> 葛飾柴又に関する魅力や情報を掲載した定期刊行物を発行するとともに、重要な構成要素のパンフレット作製や、ホームページで情報発信をすることにより、普及啓発を図る。			
					<b>新規</b> 文化的景観のガイダンス施設の整備	<b>ハード</b> <b>ソフト</b> 葛飾柴又の文化的景観の特徴と価値を紹介するための拠点施設を整備することにより、地域住民や来訪者に景観保全の重要性についての理解を深めてもらうこととする。			
					<b>拡充</b> イベントや講演会等での啓発	<b>ソフト</b> 柴又関連紙芝居の上演(帝釈人車鉄道、帝釈天物語)や新たな柴又関連紙芝居の制作を行うとともに、講演会等を実施し文化的景観の普及啓発を図る。			
					<b>継続</b> かつしか観光推進事業(葛飾柴又の文化的景観活用)の推進	<b>ソフト</b> 都内初の国重要文化的景観に選定された「葛飾柴又の文化的景観」の認知度を高め、国内外に向けてその魅力を発信する。			
					<b>新規</b> 奨励金支給	<b>ソフト</b> 重要な構成要素となっている建築物等の保全に対して、所有者に奨励金を支給する。			
<b>方針3</b> 歩いて学ぶ	(2)-② 文化的景観保存活動への支援	重要な構成要素所有者への支援	<b>新規</b> 奨励金支給	<b>ソフト</b> 重要な構成要素となっている建築物等の保全に対して、所有者に奨励金を支給する。					
		葛飾柴又の歴史的・文化的価値の調査の継続	<b>新規</b> 葛飾柴又の魅力の再発見	<b>ソフト</b> 葛飾柴又の魅力の再発見のための調査や、重要な構成要素の文化財指定に向けた調査を実施する。					
		柴又特有の伝統行事の継承	<b>新規</b> 地域の伝統行事への支援	<b>ソフト</b> 神獅子や地域の年中行事への支援を行い、柴又特有の伝統行事の継承を図る。					
		(3) 「水」と「歩く」が一体化した景観を保全し、回遊性を向上させる	柴又用水跡の整備	<b>新規</b> 柴又用水跡地のサイン設置	<b>ハード</b> 重要な構成要素である柴又用水跡について、歩道・橋梁・馬洗場跡等に誘導看板を設置することで回遊性を向上させる。				
国分道、中通り、帝釈道の活用	<b>新規</b> サインの設置・パンフレットの作成		<b>ハード</b> <b>ソフト</b> 重要な構成要素となっている国分道、中通り、帝釈道を紹介するとともに価値を伝えるため、誘導看板の設置やパンフレットの作製を行うことにより回遊性の向上を図る。						



節分会(伝統行事の継承)

方針	取組	項目	事業	内容	スケジュール				
					短期 R4-R6	中期 -R9	長期 -R13		
方針4 道路整備事業との調和	(4)-① 歴史的意味を伝えるサインシステムを構築する	選定エリア内の回遊性の向上を図る	新規 解説・誘導サインの設置	ハード 歴史的意味を明示するような解説・誘導サインを適宜設置することで選定エリア内の回遊性の向上を図る。					
	(4)-② 柴又街道との交差点部における参道の連続性の保持	参道の連続性の保持	新規 道路整備における景観的配慮の検討	ハード 柴又街道と参道の交差点部に位置する店舗や、参道の路面や都道沿いの歩道面等の仕上げに意匠的な配慮や景観的な検討を行うことにより参道の連続性を保持する。					
	(4)-③ 21世紀の参道の創出	新たな参道としての誕生	新規 帝釈天へのアプローチとしての参道の紹介	ハード 柴又街道の道路拡幅によって新たな参道としての創出が図られるよう整備方針を検討する。					

コラム 「ただいま」、「おかえり」が飛び交う参道



参道を帰宅路とする小学生



商品を作りながら参道に目配りも

放課後になると、帝釈天の参道には「ただいま〜!」と元気な小学生の声が響く。これも、1階の店先を広く開放して対面販売を行っている、ここならではの光景です。自動ドアやショーウィンドウを構えた店舗やマンションでは生み出せない、地域の人々の交流が日々育まれています。

コラム 葛飾柴又AR謎解きラリー



パンフレット



指定された物にスマホをかざすとAR(拡張現実)が出現



マップ

コロナ禍に行われたAR謎解きラリーの案内役は、縁起物の郷土玩具「弾き猿」の猿。参加者は、スマートフォンとマップを手にまちを観察し、柴又の歴史や文化を猿のキャラクターに教わりながら歩きました。同時に「葛飾柴又今昔写真展」が地域の店舗等の協力の下行われ、地域住民との接点も設けられました。



方針	取組	項目	事業	内容	スケジュール			
						短期 R4-R6	中期 -R9	長期 -R13
方針5 創って楽しむ  (5) 文化的景観の活用等 により商業・農業・観光 振興を推進する	(5)-① 商店街支援の取組  	柴又ならではの歴史的・文化的資源を活かしたPR支援事業	継続 柴又ならではの歴史的・文化的資源を活かしたPR支援事業	ソフト 地域の観光資源、キャラクター等の特性を活かした地域ブランドの創出又はPRを行う事業に対し支援することで、商店街の集客力拡大を図る。	 和菓子作り体験			
		空き店舗の有効活用	継続 空き店舗活用に向けた支援	ソフト 地域の界限性を維持するために、商店街が空き店舗を活用して行う事業を支援する。				
		商店街の賑わいの創出	継続 商店街が実施するイベント支援	ソフト 商店街が自主的に実施するイベントに支援を行うことで、商店街を活性化する。				
			継続 施設整備等への支援	ソフト LED 照明の導入や維持管理等を支援して商店街の景観や安全性の向上を図ることで、区民が商店街に足を運びやすい環境づくりを進める。				
	(5)-② 農業支援の取組	農地や柴又ならではの野菜を活用したPR事業	継続 地産地消	ソフト 柴又産元気野菜直売所及び元気食堂と連携し、地域の野菜を使った料理の提供やPR等の支援を行うことにより葛飾柴又の農業の保全を図る。				
		農地保全のための農家支援	継続 認定農業者支援事業費補助	ソフト 認定農業者に対して、ビニールハウス張替え費用、防災用井戸修繕費用、防虫ネット設置・張替え費用、堆肥の購入費用、農機具・運搬器具の購入費用、遮光カーテンの設置・張替え費用の助成を行う。	 農地			
	(5)-③ 観光支援の取組	観光拠点施設の運営等	継続 観光文化センター(葛飾柴又寅さん記念館・山田洋次ミュージアム)、山本亭、柴又観光案内所等の運営	ソフト 観光文化センター(葛飾柴又寅さん記念館・山田洋次ミュージアム)や山本亭、柴又観光案内所等の運営により、全国的な知名度を誇る柴又の観光地としての魅力を高める。	 葛飾柴又寅さん記念館			
			新規 川基跡地活用(再掲)	ハード ソフト 観光地柴又の魅力の向上とさらなる発展に向け、葛飾区が取得した川基跡地について、「葛飾柴又の文化的景観」の価値と調和的な有効活用策を検討する。				
		観光イベントの実施	継続 葛飾納涼花火大会・寅さんサミット等の開催	ソフト 葛飾区や柴又ならではの観光イベントの開催により、まちのにぎわいを演出し、観光誘客につなげる。	 葛飾納涼花火大会			
	継続 地元主催イベントの支援(さくらまつり等)		ソフト 地域の方々が主催する観光イベントの開催を支援する。					

方針	取組	項目	事業	内容	スケジュール			
					短期 R4-R6	中期 -R9	長期 -R13	
方針6 地域の災害レジリエンスを高める	(6) 防災体制の強化を図る	(6)-① 災害時の対応力強化	新規	重要な構成要素の災害時の対応力強化	<p><b>ソフト</b> 重要な構成要素の価値を継承できるように、改修等を行う際の手法や防災設備についての検討を通して災害時の対応力の強化を図る。</p>  <p>水害に備え、敷地をかさ上げた江戸川土手沿いの旧家</p>			
		(6)-② 防災意識の向上	継続	防災・減災の取組	<p><b>ソフト</b> 文化財防火デーに合わせた防災意識向上のための普及啓発の充実を図る。</p>  <p>文化財防火デーの様子</p>			

方針	取組	項目	事業	内容	スケジュール			
					短期 R4-R6	中期 -R9	長期 -R13	
方針7 景観を楽しむ	(7) 心む水と緑豊かな景観を守り伝える	(7)-① 農業景観保全の取組	新規	旧家・農家の敷地境界装置(生垣等)の修景・維持管理	<p><b>ソフト</b> 重要な構成要素となっている旧家・農家に対して、生垣等の境界装置の修景・維持管理にかかわる費用を助成する制度を創設し、助成金を支給する。</p>  <p>門冠の松と生垣を持つ旧家</p>			

コラム 木々が繋ぐ歴史の散歩道



敷地内にも多くの樹種が見られる旧家



柴又用水跡の緑

葛飾柴又は、木々をたどって歩けば、かつて農村であった歴史に触れることができます。古くからの道では、歩を進めるごとに生垣や樹木が現れ、旧家に由来する樹木が多く残り、スダジイのほか、クスノキ、イチヨウ、ケヤキ、クロマツ等変化に富んでいます。また、柴又用水跡は、両側の敷地の庭木も含めて、緑豊かな空間が形作られています。

コラム 葛飾柴又ならではの伝統的な名物



地球ピンに入った煎餅



草だんご



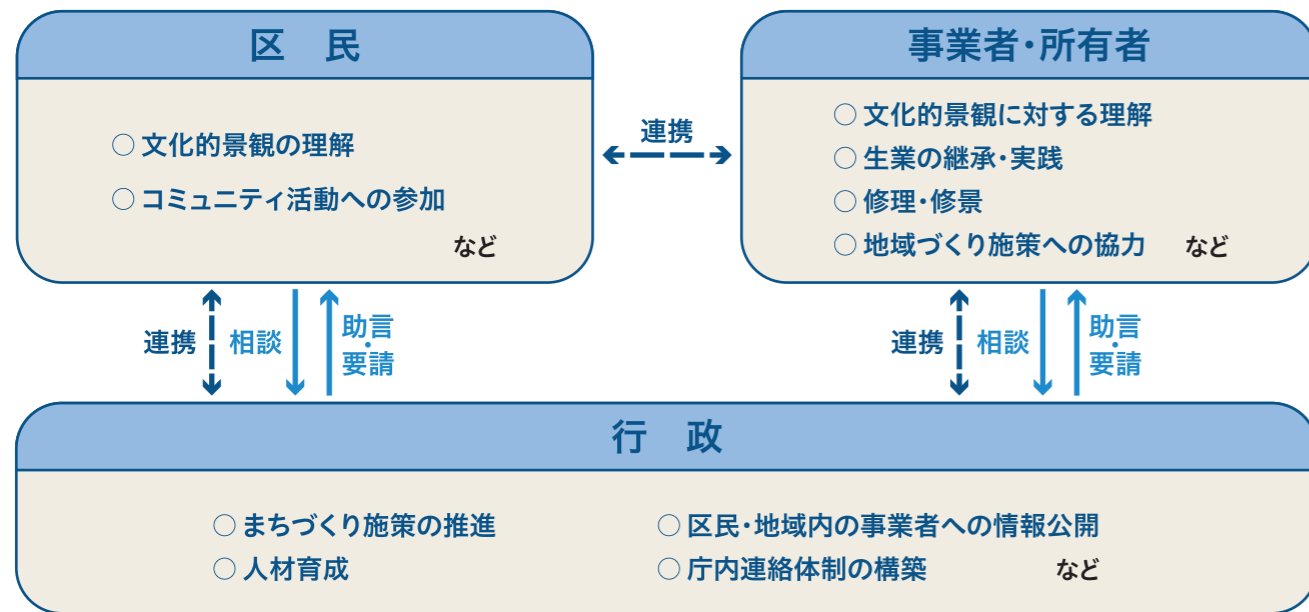
鯉のあらいと鯉こく

いにしえから葛飾柴又を訪れた人は、帝釈天題経寺に詣でたり、江戸川の雄大な流れや河川景観に魅了されただけでなく、その風土ならではの名物を食することも楽しみでした。葛飾柴又は、せんべいや草だんご、川魚料理が江戸の昔から食されている伝統的な名物です。地元で採れた米を挽いたシンコ(米粉)を素材とした生地を使い、焼いたせんべいや江戸川土手でとれたヨモギを入れて蒸して草だんごを作ります。また坂東太郎とも呼ばれ親しまれていた江戸川は、鯉・鮒・鯰などの川魚が豊富で、風味が良いとされていました。特に、川魚料理の中では最近ではあまり食されなくなった鯉のあらいや鯉こくなどの料理も葛飾柴又の伝統的な食文化として注目されます。

方針	取組	項目	事業	内容	スケジュール						
					短期 R4-R6	中期 -R9	長期 -R13				
方針7 景観を楽しむ  (7) 心和む水と緑豊かな景観を守り伝える	(7)-② 堤防上からの景観保全	帝釈天・山本亭の <sup>いらか</sup> 葺や緑等が見渡せる景観の継承	継続	柴又まちなみ景観ガイドラインに基づく地域による景観保全との連携(再掲)	ソフト	NPO法人柴又まちなみ協議会が、建築物の配置、形態等に一定の基準を設け、江戸川堤防からの眺望や参道から帝釈天の通景等の保全のために定めている、柴又まちなみ景観ガイドラインとの連携を図る。		山本亭の奥に並ぶ帝釈天題経寺の堂宇の屋根			
		新たな保全策の検討	新規	景観地区の検証(再掲)	ソフト	開発と景観保全の観点から、「参道や江戸川土手から見る調和の取れた柴又の風景・まち並み」の実現に向け、高さの最高限度を含めた「柴又地域景観地区(平成29年3月都市計画決定)」の検証を行う。		帝釈天題経寺と周辺の景観			
	(7)-③ 矢切の渡し周辺の活用	矢切の渡し周辺の環境整備	継続	矢切の渡し周辺の環境保全	ソフト	全国にその名が知られ、重要な構成要素の一つでもある「矢切の渡し」周辺の定期的な草刈り等により、観光スポットとしての環境保全を図る。		矢切の渡し			

方針	取組	項目	事業	内容	スケジュール						
					短期 R4-R6	中期 -R9	長期 -R13				
方針8 みんなで伝える  (8) 地元住民と区の両輪でまち並み景観を守っていく体制を構築する	(8)-① 重要な構成要素所有者が情報の共有等を図るための「(仮称)葛飾柴又の文化的景観連絡協議会」の組織化	「(仮称)葛飾柴又の文化的景観連絡協議会」の組織化・運営支援	新規	連絡協議会の設置	ソフト	重要な構成要素の所有者が情報の共有を図るための「(仮称)葛飾柴又の文化的景観連絡協議会」を設置し、運営支援を行う。		庚申の日の纏の奉納			
	(8)-② 文化的景観をPRするサポーターの育成	普及啓発活動を担う人材の育成	継続	地域活動への支援	ソフト	普及啓発活動の中心となるリーダーや、普及啓発の保全活動を行うボランティアグループを育成する。また、環境美化の地域活動に対して必要な支援を行う。					

# 重要文化的景観を保存・活用していくために



重要文化的景観を保存しながら整備活用を推進するためには、行政が文化的景観を活かしたまちづくり施策を推進するだけでなく、区民や地域内の事業者、重要な構成要素の所有者が文化的景観を理解し、継承していくことが不可欠です。

上記に整理する役割を、地域住民を含めた区民、事業者・所有者、行政がそれぞれ担い、実施主体となることで、文化的景観の整備・活用の推進に努めます。

## 区民の皆さんへ

文化的景観の継承は、地域住民を始めとする区民自らが  
その価値と魅力を磨き高めることが重要となります。

皆さんの地域のコミュニティ活動を始め、まちづくり等の多様な活動を通し、  
文化的景観の整備・活用の取組がなくては、  
日本を代表する景観地「葛飾柴又」を後世に伝えていくことはできません。

## 届け出が必要なこと

重要文化的景観の重要な構成要素においては、文化庁へ右記について届け出が必要です。届け出にあたっては、事前に葛飾区へご相談ください。

届け出が必要な事項	届出者	届出時期
滅失又はき損	所有者等	事実を知った日から10日以内
現状変更又は保存に影響を及ぼす行為	行為をしようとする者	行為をしようとする日の30日前まで

文化的景観の保存・活用に関わる方々は下記までご相談ください。

葛飾区教育委員会生涯学習課 ☎ 03(3695)1111



(発行) 葛飾区教育委員会  
令和4年11月

(事務局) 葛飾区教育委員会生涯学習課  
〒124-8555 東京都葛飾区立石5-13-1

本書は『国選定重要文化的景観 葛飾柴又の文化的景観整備計画』(葛飾区教育委員会令和4年6月刊行)の概要版として作成したものであるが、内容をビジュアル的に伝えるために新たな写真や図表化等を行っている。